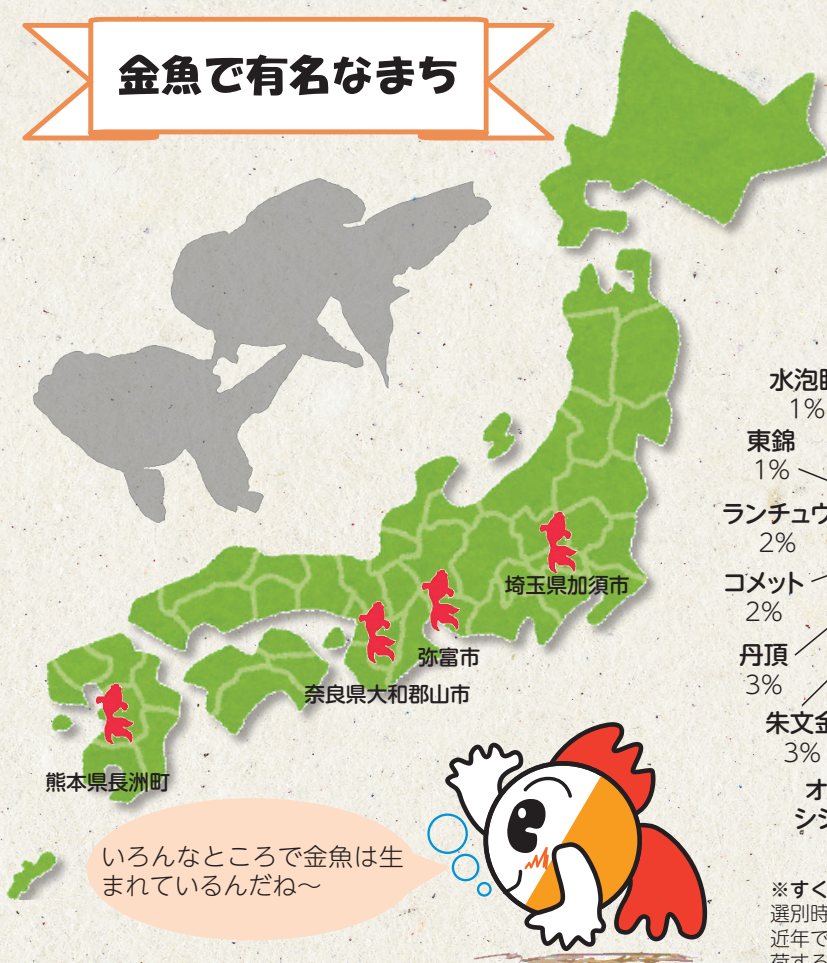


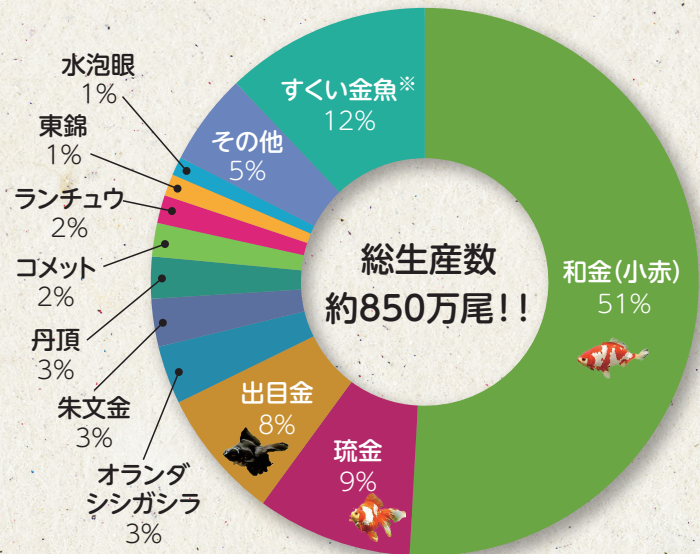
『弥富金魚』は日本一!!

金魚で有名なまち



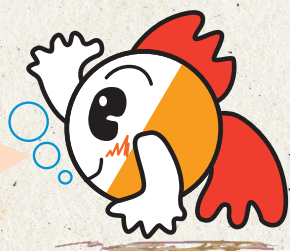
金魚の生産地として有名なまち弥富。今から約150年前までは奈良県の大和郡山市から江戸へ金魚を運ぶための中継地点でした。木曾川の下流域の水郷地帯であるこの地域が水量・土質共に養殖に最適であったこともあり、金魚養殖業が盛んに行われるようになりました。弥富は今では金魚の産地として全国的に知られるようになりました。

弥富で生産される金魚の品種構成



*すくい金魚とは選別時に規格外となり金魚すくい用として出荷される魚を通常指すが、近年では無差別に出荷される場合や、出荷するために数品種を混ぜて出荷する場合も含まれる。

いろんなところで金魚は生まれているんだね~



弥富金魚漁業協同組合 伊藤恵造 組合長

弥富の金魚自慢
金魚の一大産地である「弥富」の特徴は、生産されている金魚の種類が多いこと、金魚の流通に関わる市場の多さやその規模の大きさです。
弥富で生産されている金魚は、日本観賞魚振興事業協同組合で認定されている全31種類の中の26種類。金魚すくいでもよく見かけるような和金だけでなく、色形が異なる様々な観賞用として愛されている高級金魚を中心に生産されていることが特徴です。
また、金魚の取り扱いを主としている市場が全国に8市場ありますが、その中の3つが弥富にあります。いずれも取扱品種、流通量は他の5市場と比べてもトップクラスです。さらに日本の中心に位置している好立地を生かし、市場でセリにかけられた金魚をすぐに全国に届けられることもトップクラスの市場規模を維持している要因です。

10/22 第24回金魚日本一大会開催!

金魚日本一大会とは

弥富金魚漁業協同組合が主催で行う金魚の品種を問わず出品される品評会。日本中の金魚愛好家などが集結し、自慢の金魚の美しさを競います。昨年の出品数はなんと713点! 普段見ることができないような大きな金魚、珍しい金魚が見られるかも...?ぜひお出かけください。

▼とき 10月22日(日)一般観覧午前10時~午後3時

▼ところ 海南こどもの国

☎弥富金魚漁業協同組合 ☎65-1250



昨年の様子

金魚養殖 (鍋田)

深見直基

さん (25)

(桜錦)※深見さんの祖父(光春さん)が開発した品種



インタビューに答える深見直基さん

「特集! 弥富の魅力再発見」記念すべき第一回は、鍋田地区で金魚養殖を行っている深見直基さん取材しました。今年度から養殖業を本格的に始めた方です。金魚養殖業の仕事についてたくさん伺いました。

—深見さんが金魚養殖業を始めようとしたきっかけは何ですか?—
金魚の養殖を始めた祖父(光春さん)が高齢になり、養殖業を引退したら、現在の規模を縮小するしかない状況になると思いました。ここで育てた金魚が良いと言ってくれるお客さんがいることも知っていたので、それを機に家業を継ぎたいと思いました。

—ズバリ! 深見さんの育てた金魚の自慢できるところは?—
生産している種類が多いことと金魚の王様と言われる「蘭鑄(ランチュウ)」という品種に力を入れていることです。全国で有名な品評会に出場して1位を獲得することを目指しています。金魚の選別を頻繁に行っていて、形が良い遺伝子をもつ金魚を生産しています。

—金魚養殖の大変なところややりがいは?—
生き物を扱う仕事なので、餌や水替えなど毎日の世話が大変です。朝早く始まり、日が沈むころまで作業を続けなければいけないので、休みがないという苦労があります。やりがいはお客さんや小売業者から「良い金魚だね。」と褒めてもらえること。あとは父(泰範さん)と私の代で品評会で1位を獲得したい! という目標が日々のモチベーションになっています!

—深見さんのこれからの夢(目標)は何ですか?—
まずは良い金魚を見分ける目を養うことと金魚の管理をしっかりやることが目下の目標です。

祖父がやっていたような新種の金魚の開発はまだ考えておらず、現在育てている金魚を大切に育てられるようになりたいです。将来的には、弥富での金魚の生産者が減っている中で、金魚の魅力伝える売り方や金魚の良さを普及するような活動がしたいです。

特集!
弥富の魅力再発見

金魚のまち弥富

地場産業を守る若者!



金魚の選別作業

(土佐金)



(地金)

